

【兵庫県 宍粟市】

校務 DX 計画

宍粟市においては、国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度に全ての小・中・義務教育学校で1人1台端末（タブレット端末）の整備と通信ネットワークの構築など、ICT環境を整備し、子どもたちの発達段階に応じた情報活用能力の育成や探究的な学習活動の充実などを進めてきた。

教職員においても、ICTの活用が進む中、保護者と学校との連携ツール導入やそれに伴うペーパーレス化などの業務改善を進めることで、きめ細やかな指導や支援に努めてきたところである。

しかしながら、多様化・複雑化する業務の対応のため、更なる改善が必要であることから、校務DXに係る取組を推進する。

1. 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド上のデータやサービスを活用することを前提に、それに相応しいセキュリティレベルを確保し、教育DXの基盤構築及び情報資産を守るため、令和7年度中に、教育情報セキュリティポリシーの策定を行う。

2. 校務DXに向けた取組

(1) 校務パソコンの更新

デスクトップ型からノート型に変更することで、市内小中学校（総合教育センター含む）で場所を問わず、校務や授業支援など幅広い用途でパソコンを利用することが可能となる。また、ペーパーレス、オンライン会議を行いやすい環境となり、校務DXの推進となる。

(2) グループウェアの導入

令和5年度までは、学校管理職及び事務職員に限りグループウェアを導入していたが、令和6年度から全教職員にもグループウェア（閲覧、掲示板等）を導入した。これにより、所属校に限らず市内の全小中学校の教職員との連携が容易に取れるようになり、校務DXの推進となっている。

(3) 校務支援ソフトのクラウドサービスへの移行を令和9年度に行う。

クラウドサービスへの移行に向けて、以下の取組を行う。

①FAX・押印等の制度・慣行の見直し

令和6年度時点において、FAX・押印等 FAX でのやりとり・押印を原則廃止とした学校の率は 11.1%であった。これを令和7年度中には事務手続きの見直し、徹底を行い、100%とすることを目標とする。

②校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃

令和6年度時点において、名簿情報の不必要な手入力作業を一掃しているとした学校の率は 83.3%であった。これを令和7年度中に 100%にすることを目標とする。